使用の手びき

型式：5003

SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用電子ミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   - ミシンのそばを離れるとき。
   - ミシンを使用したあと。
   - ミシン使用中に停電したとき。

⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

3. 曲がった針はご使用にならないでください。
4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
5. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

6. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
   - ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
   - 原則として上糸、下糸を交換するとき。
7. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
   - 正常に作動しないとき。
   - 落下などにより破損したとき。
   - 水に濡れたとき。
   - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - 異常な臭い、音がするとき。
8. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

ミシンの取り扱い

● シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

● 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。

● 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきます。

目次

安全にご使用いただくために ..... 表紙裏
ミシンの取り扱い 2
ミシンカバー 2
各部の名称 4
ミシンの動かし方 5
　電源を入れましょう 5
　スタート・ストップボタン 5
　スピード調節つまみ 5
　押え上げレバー 5
模様の選び方／ぬい目長さの調節／返しぬい 6
　模様表示窓 6
　模様選択ダイヤル 6
　ぬい目の長さ調節ダイヤル 6
　返しぬいレバー 6
補助テーブルの取り扱い 7
付属品の内容・名称 8
押えの取りかえ方 9
針の取りかえ方 9
下糸の準備 10
　ボビンの取り出し方 10
　下糸の巻き方 10
　ボビンのセット 11
上糸の準備 12
　上糸のかけ方 12
　糸通しの使い方 13
　下糸の引き上げ方 13
ぬってみましょう 14
　ぬい始め〜ぬい終わり 14
　返しぬい 15
　ぬい方向の変え方 15
　厚地のぬい始め 15
　段ぬい 15
糸調子のとり方 16
糸と針の選び方 17
直線ぬい 18
ジグザグぬい 18
まつりぬい（ブラインドステッチ） 19
つくろいぬい（点線ジグザグぬい） 20
伸縮強化ぬい 20
ふちかがりぬい（たち目かがり） 21
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき） . 22
　つき合わせ 22
　脇あき 23
ボタンホールぬい 24
アップリケ 26
ピンタック 26
フリーアームぬい 27
模様の形の調整 27
ミシンのお手入れ 28
　ランプの交換 28
　かまと送り歯の掃除 29
不調の原因と処置 30
コントローラーのご案内（別売り） 31
修理サービス要領 32
お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法） 33
仕様 33

各部の名称

糸案内（10,12ページ）
糸巻き案内（10ページ）
天びん（12ページ）
上糸調節ダイヤル（16ページ）
スタート・ストップボタン（5ページ）
補助テーブル（7ページ）
模様表示窓（6ページ）
模様選択ダイヤル（6ページ）
スピード調節つまみ（5ページ）
返しぬいレバー（6ページ）
ぬい目の長さ調節ダイヤル（6ページ）
糸立て棒（10,12ページ）
糸巻き軸（10ページ）
ボビン押え（10ページ）
はずみ車
バランス調整ネジ（27ページ）
コントローラージャック（31ページ）
電源プラグ（5ページ）
電源コード（5ページ）
電源スイッチ（5ページ）
ハンドル
糸切り（14ページ）
押え上げレバー（5ページ）
機番プレート

糸通しレバー（13ページ）
糸通し（13ページ）
押えホルダー（9ページ）
押え止めネジ
押え（9ページ）
糸かけ（12ページ）
針止めネジ（9ページ）
糸かけ（12ページ）
針（9ページ）
針板（29ページ）
すべり板（10ページ）

ミシンの動かし方

●電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。

1 電源コードを引き出し、プラグをコンセントにさしこみます。

警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

コードをしまうときは、コードを少しひっぱってはなせば、自動的に巻きこまれます。

電源を入れるとランプが点灯します。

2 電源スイッチを入れます。

警告：事故防止のために；
ミシンを使わないときやお手入れの際は、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。

●スタート・ストップボタン

このボタンを押すたびにミシンはスタートとストップをくり返します。
ぬい始めはゆっくり回ります。
針は、常に上の位置で止まります。

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをします。

●スピード調節つまみ

このつまみを右に動かせば、だんだん速く、左に動かすとゆっくりになります。

注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

模様の選び方／ぬい目長さの調節／返しぬい

●模様表示窓

ミシンの前面に表示されている模様の中から、お望みの模様を選びます。選ばれた模様の窓が赤くなります。

> **注意：ケガ防止のために；**
> 模様を選ぶときは、必ずミシンを止め、はずみ車を手前に回して、針を布から上げてください。

●模様選択ダイヤル

このダイヤルを回して模様を選びます。

●返しぬいレバー

このレバーを下げると、返しぬいを低速でぬいます。
レバーをはなすと自動的に止まります。

●ぬい目の長さ調節ダイヤル

大きい数字に合わせるほど、長いぬい目になります。

0
ボタンホールや密着ぬい
1
2
3
4

補助テーブルの取り扱い

●はずし方
テーブル左側の底に指をかけ、上にもち上げます。

●取り付け方
テーブルの脚を図のようにミシンのみぞにあわせ、上から押します。

●あけ方
テーブル左側のみぞに指をかけて、上にひき上げます。
テーブルの中には、付属品がはいっています。（次ページ参照）

付属品の内容・名称

針ケース（5本入）
11番、14番、16番と
ニット針（黄色）
11番、14番各1本

ドライバー

シーム
リッパー

油差し

ボビン

糸巻き押え

ボタンホール押え

ファスナー押え

ふちかがり押え

ジグザグ押え

この押えは、
ミシンについて
います。

押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが18ページ以降に示してあります。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

❶ はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

❷ 押え上げレバーを上げます。

❸ ボタンを押します。
押えがはずれます。

❹ 交換する押えのピンを、押えホルダーのみぞの真下に合わせます。

❺ 押え上げレバーを下げます。
ピンがみぞにはまります。
もし、完全にはまらないときは、押えホルダーのボタンを押してみてください。

ピン　みぞ

針の取りかえ方

針は、布地や糸に合わせて選びます。17ページの「糸と針の選び方」を参照ください。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

ピン

❶ はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

❷ 針止めネジをゆるめます。

❸ 針をはずします。

❹ 針の平らな面を後ろにして、針止めピンにあたるまで差し込みます。

❺ ドライバーでネジをしっかりしめます。

注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

下糸の準備

●ボビンの取り出し方

1 すべり板を手前に引いて、取りはずします。

2 ボビンを取り出します。

●下糸の巻き方

番号順に行います。

1 糸立て棒に糸巻きを入れ、糸巻き押えを差し込みます。

糸巻きに切りみぞがある場合は右にセットします。

2 糸かけと糸巻き案内にかけます。

3 ボビンの穴に糸を通します。

4 ボビンを糸巻き軸に差し込み、右へ押しつけます。

5 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。

・スピードをゆっくりに調節します。

6 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

7 もう一度スタートさせます。

・スピードを調節します。

8 糸がボビン押えにあたって回らなくなるまで巻かれたら、ミシンをストップさせます。

9 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

●ボビンのセット

1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。

2 糸を手前のみぞ（A）にかけます。

お知らせ：
ボビンは、専用のものをお使いください。

3 糸をみぞにかけたまま、左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ（B）にかけます。

4 糸を10cmくらい引き出して、すべり板を取り付けます。

上糸の準備

●上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

●糸通しの使い方

1 押えを下げます。
2 はずみ車を手前に回して針を上げます。

・針は11番、14番、16番が使えます。

3 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。

注意：ケガ防止のために；
ミシンが動いているときに糸通しレバーは、下げないでください。

4 レバーをいっぱいに下げます。

糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

5 糸を案内みぞの奥まで入れます。

糸がフックに引っかかります。

6 糸をかるく持ってレバーをはなします。

フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

7 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。

●下糸の引き上げ方

1 押えを上げます。
2 上糸をかるく持ちながらはずみ車を手前に回して１回転させます。

3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。

4 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。

ぬってみましょう

直線ぬい（　）をぬってみましょう。

●ぬい始め〜ぬい終わり

注意：ケガ防止のために；
布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

●返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。

1. 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
2. 返しぬいレバーを下げて、4～5針返しぬいをします。レバーを離すと止まります。
3. スタートボタンを押して、布地のはしまでぬい進めます。
4. ぬい終わりに、もう一度返しぬいレバーを下げます。

●ぬい方向の変え方

1. 布地の角まで来たら、ストップします。
2. はずみ車を手前に回して、針を布に刺します。
3. 押えを上げます。
4. 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
5. 押えを下げて、ぬい始めます。

●厚地のぬい始め

厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがってぬい始めます。

● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。

●段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

糸調子のとり方

通常、上糸調節ダイヤルを「自動」に合わせると、正しい糸調子になるよう調節されています。

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合は、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。

●正しい糸調子
上糸と下糸が布地のほぼ中央で結び目を作ります。

●下糸が表側に出ているとき

“よわい”の方向に回します。

●上糸が裏側に出ているとき

“つよい”の方向に回します。

●ジグザグぬいの糸調子
ジグザグぬいの場合は、直線ぬいのときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るようにしますと、きれいにぬえます。

●こんな場合は…
図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方（とくに、上糸調節装置への）が違っています。12ページをご覧の上、正しくかけ直してください。

また、上糸調節ダイヤルを「よわい」に回しても、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方が違っています。11ページをご覧の上、正しくセットし直してください。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類	糸の番号	針の番号	ぬい目の長さ（直線ぬい）
●薄地―薄地ジョーゼット、ボイル、オーガンディー、タフタ、絹布など。	綿　80～100 絹　60～80 化繊糸 80～100	9～11番	1.5～2.5ミリ
●普通地―ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、一般服地など。	綿　50～80 絹　50 化繊糸 50～80	11～14番	2～3ミリ
●厚地―ギャバジン、ツィード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿　30～50 絹　50 化繊糸 30～60	14～16番	2～4ミリ
●伸縮性の布地―ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50～80 絹　50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	1.5～3ミリ

注意：ケガ防止のために；
針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

● 針の取りかえ方は9ページを参照ください。

直線ぬい

直線ぬいはミシン裁縫の基本で、どんな作品を仕上げる場合でも、必ず使われるぬいです。

左基線ぬい（　）は、薄地や、はしぬいに適しています。

ジグザグぬい

布地のはぎあわせや、ふちかがり、アップリケなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

ぬい目の長さを“　”に合わせると密着ぬいになります。

まつりぬい（ブラインドステッチ）

布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。
ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。

1 布を図のように折ります。

ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。

2 針が最も左側にきたときに折り山にわずかにかかるように布の位置を合わせてぬいます。

3 ぬい終わりましたら、布を返します。

つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。

● つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。

● ゴムひも付け

ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。

伸縮強化ぬい

直線とジグザグの 3 重ぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。また非常に強いぬい目です。

ジャージー・メリヤスなどの伸縮性布地や、力がかかってほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

●そで付け

●ズボンの股ぐり

●バッグ

●ポケット

ふちかがりぬい（たち目かがり）

あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。

たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。

注意：ケガ防止のために；
ふちかがり押えは、必ず模様（大きい幅のジグザグ）と（ ）だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり、危険です。

ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。

小さい幅のジグザグでかがるときに使います。

ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）

●つき合わせ

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。

3 ファスナー押えを取り付けます。

あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。

布の合わせ目から0.7～1cm はなしてぬいます。

右側も同様に0.7～1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；

ファスナー押えは、必ず模様（┆）だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり、危険です。

●脇あき

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

3 ファスナー押えを取り付けます。

あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

右側は、布の折り目から0.7～1cmはなしてぬいます。

● スライダーをよけてぬうには：

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
4. 押えを下げてぬい続けます。

ボタンホールぬい

ぬい目の長さ調節ダイヤルを0と1の間の“ ”マークの範囲内で調節しながら布地にあったぬい目が得られるように、ためしぬいをしてください。
伸縮性のある布地の場合は、裏に紙などをあててぬいますと、布の伸び縮みを防ぐことができます。紙はぬい終わったら取り除きます。

布地のボタンホールをぬう位置に印をつけておきます。（図1）
ボタンホール押えの枠を手前に引いてぬい始めます。（図2）

模様選択ダイヤルは下の表に従って操作します。

注意：ケガ防止のために；
模様選択ダイヤルを操作するときは必ずミシンを止め、針を布から上げてください。

順序	模様選択ダイヤル	ぬい順序	ぬい方
1	1		模様選択ダイヤルを“ ”に合わせます。 スタート位置の印が針の真下にくるように布をおき、押えを下ろします。 必要な長さだけ左側をぬい、ミシンを止めます。
2	4 2		模様選択ダイヤルを“ ”に合わせて、スタート・ストップボタンを押します。5～6針かんぬき止めをぬい、ミシンを止めます。
3	3		模様選択ダイヤルを“ ”に合わせて、右側を左側と同じ長さだけぬい、ミシンを止めます。
4	4 2		模様選択ダイヤルを再び“ ”に合わせて、スタート・ストップボタンを押します。5～6針かんぬき止めをぬい、ミシンを止めます。

ぬい終わりましたら

1. 押えを上げて布を引き出し、10cmほど残して上糸・下糸を切ります。
2. 下糸を引いて上糸を布の裏側に出し、上糸と下糸を結びます。
3. ぬい糸を切らないように注意して、シームリッパーで穴を切り開きます。
   このとき、まち針を刺しておきますと切りすぎることがありません。

芯入りボタンホール
芯を入れてぬいますと丈夫なボタンホールができます。芯糸にはレース糸などを使います。
芯糸をボタンホール押えのうしろの突起にかけ、押えの下を通して前の突起にかけて結びます。芯糸の上からボタンホールをぬいます。ぬい終わったら芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで、穴を開く時、リッパーの先端に手や指をおかないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

アップリケ

市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。

1 アップリケ布を止めます。

2 アップリケの布はしをたち目かがりと同じ要領でぬいつけます。

● 急な角度をぬう場合

布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。

のりづけまたはしつけをします。

カーブの強いものは小さいジグザグでぬいます。

ピンタック

ブラウスなどの装飾に使います。

1 アイロンでピンタックの折り山を整えます。

2 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。

3 アイロンで片側に倒します。

フリーアームぬい

補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

● 補助テーブルの取りはずし方は7ページを参照ください。

模様の形の調整

布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によっては、模様の形がくずれてしまう場合があります。
ボタンホールや伸縮模様をぬっているときに形がくずれるようでしたら、バランス調整ネジを回してきれいな模様が得られるように調整してください。

ボタンホール
左側の列があらいとき、ネジを（－）に回します。

伸縮模様
右の図のようなときは、ネジを（－）に回します。

右側の列があらいとき、ネジを（＋）に回します。

右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。

ミシンのお手入れ

警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

●ランプの交換

注意：ケガ防止のために；
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。
電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。

1 面板左側の止ネジをはずします。

2 面板を左に引いて取りはずします。

3 ランプを左に回して取りはずします。
取り付けは右にねじ込みます。
ランプは、ミシンをお買い上げの販売店でお求めください。（100 V 12W）

このミシンは、特に注油の必要はありませんが、長時間ご使用にならないときは、左図の矢印のところに 1 ～ 2 滴油をさしておいてください。
● かまやボビンケースには、油をささないでください。

●かまと送り歯の掃除

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

＊ ボビンケースの掃除

すべり板とボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

＊ 外がまと送り歯の掃除

1 針と押えを取りはずします。すべり板とボビンを取りはずします。ねじをはずし、針板を取りはずします。

2 ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。

3 外がまと送り歯のまわりを掃除します。

●掃除機を使うときれいになります。

ボビンケースのよごれはかわいた布でかるくふき取ります。

4 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。

不調の原因と処置

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめて見てください。

不調の状態	原因	処置調整	参照頁
上糸が切れる	糸のかけ方が違っているか、余計な所にからまっている。	正しくかけ直します。	12
	針の取り付け方が間違っている。	正しくつけ直します。	9
	上糸調子が不当に強すぎる。	適当な強さに調整します。	16
	布に対して糸と針が合っていない。	布、糸、針の関係を合わせます。	17
下糸が切れる	ボビンのセットが間違っている。	正しくセットし直します。	11
	かまにゴミがたまっている。	掃除します。	29
ぬい目が飛ぶ	針が曲がっているか、先がつぶれている。	正しい針と交換します。	9
	針の取り付け方が間違っている。	正しくつけ直します。	9
	布に対して糸と針が合っていない。	布、糸、針の関係を合わせます。	17
針が折れる	布地を無理に引っ張っている。	手は布地にそえるだけにします。	14
	布地、糸に対して針が細すぎる。	布、糸、針の関係を合わせます。	17
	模様、押えが合っていない。	正しく合わせます。	18～
	針の取り付け方が違うか、しめ方がゆるい。	正しく、しっかり取り付けます。	9
布地を送らない	ぬい目の長さ調節ダイヤルが“0”になっている。	ダイヤルを調節します。	6
	送り歯にほこりがかたまっている。	針板をはずして掃除します。	29
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	12
	糸調子が強すぎる。	調子を整えます。薄物ぬいはゆるめにします。	16
	布地に対してぬい目の長さが合っていない。	正しい長さに合わせます。	17
ぬい目に輪ができる	ボビンのセットが間違っている。	正しくセットし直します。	11
	糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	12
	糸調子がつり合っていない。	正しく合わせます。	16
回転が重く音が高い	かまの内部や送り歯に糸やゴミがたまっている。	針板をはずして取り除きます。	29
ミシンが回らない	プラグの差し込みが不十分である。	しっかり差し込みます。	5
	電源スイッチが入っていない。	スイッチを入れます。	5
	コントローラー（別売り）が取り付けてある。	コントローラーで操作をするか、コントローラーをはずします。	31
	糸巻き軸が右へ押されている。	左へ戻します。	10
模様が整わない	バランス調整ネジが合っていない。	正しく調整します。	27

このページに記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」におたずねください。

コントローラーのご案内（別売り）

コントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタンはきかなくなります。

●コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。
●購入方法については、33ページを参照ください。

⚠	**警告：感電、火災を防ぐために；** コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないでください。
⚠	**注意：ケガ防止のために；** コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ　保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ　浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ　ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
ニ　ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
ホ　職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

150年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

株式会社 シンガーハッピージャパン
「お客様相談係」
〒110-0016
東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の「お客様相談係」等でも承っておりますので、ご遠慮なくお申し越しください。

＊ シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、下記の「お客様相談係」におたずねください。

株式会社 シンガーハッピージャパン

「お客様相談係」

〒110-0016　東京都台東区台東２丁目９番５号

TEL. 03-3837-1862　FAX. 03-3837-0072

＊ 住所および電話番号は、都合により変更することがありますので、ご了承ください。

仕様

定格電圧	100 V
消費電力	80 W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ定格	100V 12W
寸法	幅：403 mm × 高さ：302 mm × 奥行き：174 mm
重量	8.5 kg

SINGER®
シンガーミシン

株式会社 シンガーハッピージャパン
〒110-0016　東京都台東区台東2丁目9番5号
電話　03-3837-1865

® はTHE SINGER COMPANYの登録商標です。
33431 C5 5003